

未来は変えられる

秋休みが終了し、本日から令和8年度後期が始まります。後期開始にあたり、ここでは「未来は変えられる」という言葉を紹介したいと思います。

新人体育大会の熊谷市予選会のことです。ちょうど1ヶ月前の9月19日は中心日の3日目でした。私は、野球部の準決勝の応援のため、さくら運動公園の野球場にいました。試合は序盤に本校の攻撃が機能し、2回終了時点で7対0のリードです。しかし、3回表、相手投手が代わり、見事なピッチングで3者凡退に抑えられました。試合の流れが変わるかもしれません。そのタイミングで対戦校の監督の声が聞こえてきました。それは、「いけるぞ！いけるぞ！未来は変えられるんだ！」と選手たちに檄をとばす声でした。果たして、3回裏、監督の言葉に応えるように、選手たちは躍動しました。4点を返したのです。点差が開いた中でも、決してあきらめず、あきらめないどころか、監督の檄を受け、プレーを楽しみ、仲間を鼓舞する姿勢に、対戦校ながら、胸が熱くなりました。私は3回終了時、他の競技の応援に行かなければならず、野球場を離れ、試合を最後まで見ることはできませんでしたが、「いい試合」だったと聞いています。

この野球の例でみれば、2回終了時点の「7対0」という「過去」は変えることができません。それでも3回以降の「未来」はいくらでも変えることができるのです。「未来は変えられる」という言葉が深く印象に残りました。

そこで後日、インターネットで「未来は変えられる」と検索してみたのです。すると、1900年代のカナダの精神科医エリック・バーンの言葉「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉に出会うことができました。

友達などとの人間関係の中で、「あの人に、こういうところを改めてもらえるといいな」と思うことがあるかもしれません。ただ、自分が思うように相手をコントロールすることは、なかなか難しいことです。相手を変えようとするのではなく、自分自身が少し変わって、相手に対する接し方や声掛けなどを工夫することで、人間関係が上手くいくこともあります。失敗をしてしまったなどの過去も変えることはできません。無理に変えようすれば、言い訳やごまかしになりますから、成長をする上では完全にマイナスになります。失敗を受け止め、改善を図ることで、未来は変わるはずです。

生徒の皆さんには、令和8年度後期を明るく前向きな気持ちで迎えてほしいと思っています。これからの約半年、皆さんの気持ち、言葉や行動次第で、未来は明るいものになるのだと信じています。令和8年度後期が、皆さんの近未来が、明るく有意義なものであることを期待し、始業式の式辞とします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣